

令和 6 年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

自分らしく！ たくましく！ のびのびと！ 健康でたくましい子 よく遊び思いやりのある子 自分の思いが表現できる子

2. 本年度の重点目標

認め合い、伝え合い、励まし合い、共に育ち合う子をめざして ～一人一人に寄り添い、様々な環境と援助のあり方を考える～

3. 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・年度当初に研修計画を立て、職員が自主的に園内研修に取り組んだり、相互に保育を公開したりすることで学び合うなどし、それぞれが資質向上に務めた。また、外部の講師による研修会も実施し、内容の検討等を行い、ねらいを明確にしたうえで臨んだため、より内容の濃い研修となった。 ・園務分掌により、適切に機能しているところがある反面、場合により受動的になりがちなどところも否めない。今後、どのように参画していくかは課題である。	B
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・今年度も引き続き、クラスや年齢毎の活動に留まらず、日頃からのかかわりで異年齢交流が行えるよう意図的且つ計画的に保育を行った。 ・一人一人の主体性を育み、やりたい！という気持ちに寄り添えるような環境構成を模索した。また、個々の発達の特性や育ちを見極め、園児の気づきや発見から、試す、考えるなど、学びにつながる環境作りにも配慮し、実践した。今後も丁寧な保育を心がけていく。	B
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・「よつばこクラブ」では、未就園親子が楽しめる内容を丁寧な準備と計画のもと行い、子育てでの不解消の一翼を担った。さらに、在園児との交流も取り入れることで、より有意義な機会となった。 ・保護者との懇談の機会を増やしたり、個別にメモ書きや連絡ノートでの伝達等で、できる限り丁寧且つ共に支えあう体制を心がけた。しかしながら、様々な事業を丁寧に行うと、保護者の満足度と比例して職員の負担も増加するため、最小の労力で最大限の効力が発揮できるよう再考していく。	A
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・消防職員や警察職員、交通安全指導員等を招き、訓練を実施や研修を行ったことで、防災意識が高まった。また、有事の際には、個々の判断で咄嗟の対応ができるよう、未告知での火災・不審者訓練なども行った。 ・安全点検で目視した不備が迅速に解決できるよう、積極的な働きかけを行う。 ・職員室に欠席状況を掲示することで、情報共有の一助とした。また、感染症の発症時にはボードで保護者にも知らせ、園内における手洗いや消毒、預かり早朝の分散、換気など拡大防止に努めた。	B
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・それぞれの年齢に応じた野菜の栽培や生き物の飼育を通して、命の大切さや思いやりの心が育まれるような保育・環境を工夫した。 ・人権セルフチェックを今年度も行うことで、再度職員の気づき、意識改革につながるような振り返りの機会となった。 ・様々な環境の中でも、人的環境(職員)が与える大きさを考慮のうえ、保育を行い丁寧な対応を心掛けていく。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・積極的に様々な専門機関と連携を取り、保護者の思いを十分に汲み取りつつ個々の園児にとってより良い方向性を見出せるよう、支援の方法を探ったり助言をいただいたりしながら、丁寧に関わりを心掛けた。また、職員間で情報共有し、園全体で園児の支援にかかわるようにした。 ・今後は、さらに専門性を高めるためにも、市内外問わず研修会へ積極的に参加していく。	B
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・クラスだよりやポートフォリオ、面談などで、保護者へのこまめな情報発信を行った。また、園の行事は親子参加型で共に楽しめたり、成長の一端を感じられたり、共に園行事から出るような内容を計画し、参加を呼びかけた。しかし、低年齢児の参観については、時期や方法などを再考していきたい。 ・野菜の土作り、茶道・太鼓・音楽の文化に触れる機会などを、地域の方の力を借りて取り組んだ。今後も、地域で育つ園児の育成に努めたい。 ・小学校との交流活動・幼小職員研修、中高生の職場／保育体験、大学生の実習生の受け入れ等、幅広い交流を実施した。R8年度の小学校統合に向けて次年度からの在り方を検討していく。	B

園名 加西市立泉よつばこども園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

全体的にしっかりと取り組んでいるのが、よく伝わり、適切に評価されていると思います。アンケート結果を見れば、園への信頼度も期待度も高く、十分満足されているようです。この結果から、園運営のあり方をはじめ、職員の日々の子ども達への接し方が伺えます。素晴らしい事です。自信をもって、今後も職務を遂行してください。
職員の負担の大きさが心配になりますので、配慮のうえ、引き続き頑張っていたきたい。心から、応援しています。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・全員揃うことが難しくても、自主的にしっかりと研修に取り組まれ、それぞれが資質の向上に励んでいることに頭が下がります。職員間で学び合っていることが素晴らしい。 ・経験年数・立場の違いで生じる園務内容も、研修・実践等を重ねていくなかで、一人一人が資質向上に務める事で、全体の底上げに繋がります。それぞれ学べたことが職員間で共有され、更なる向上がなされる事を期待します。 ・0歳から5歳の乳幼児期における一年一年は後戻りのできない貴重な成長過程・大切な時期だと思います。年齢の特性を踏まえたうえで、個々の特性、育ちを見守り、健やかな心身の発達につながるよう、環境に配慮した保育・教育を職員間の共通認識のもとで、続けていただきたい。 ・子ども中心のカリキュラムで主体性を育んでいる成果は、とても評価できます。ただ、やり過ぎは子どもの思考時間を削ることになり、先生方もじつくりと子どもと向き合えないのでは心配します。細やかな反面、職員の負担が増すことのないよう、良いバランスの保育となることを期待しています。 ・不安を抱える保護者に丁寧に対応されていることに頭が下がります。保護者が園に合わせて相談できるようになればと思います。 ・一時預かり、園庭解放、早朝、延長・・・など、子育て支援の幅は全ての保護者のニーズに至れり尽くせりで、増える事はあっても減る事はないでしょう。職員の皆さんには、益々負担増で大変だとは思いますが、それ以上に社会に認められている職であり、誇りを持って、頑張っていたきたいと思っています。 ・面談は大変だとは思いますが、是非とも効率的な方法を見つけて欲しい。 ・防災意識を高める事は、今の時代非常に大切だと思いますし、しっかりと行われていると思います。 ・脅迫メールの対応は、あれで良かったと思います。何をしても完全ではないので、今回のようにきちんと説明出来るのが大事だと思います。 ・不審者・感染症・災害発生を見据えた防犯対応など、様々な安心・安全のための訓練を通して、自らを守る大切さを知り、考えて行動がとれる子どもの育成に努めてください。感染症等難しい対応を迫られる事もあるでしょうが、今迄通り頑張ってください。 ・人権教育や道徳性は長時間を共に過ごす身近な人が大きな影響を与えていると思います。子どもは言葉のみではなく、目・耳・肌で感じ取ることも多いでしょう。子どもにとって人生初の社会生活関わっている者として、職員一人一人が自らの発する言葉や行動が子ども達に与える影響を常に意識して行動すること心がけてください。そうした普段からの姿勢は、子ども達を健やかに導く最強の道徳・人権教育につながれると思います。 ・集団生活の中での不都合が、子どもの学びの体験になることを証明していただけたらと思います。 ・支援児に対する指導・取り組みは、専門機関と連携をとる中で、一人一人に応じた専門的知識を学び、日常に活かせるよう取り組んでください。 ・園長の話からも、かなり丁寧な対応をとられていることは伝わってきました。それも負担の一つではあるでしょうが、引き続き頑張っていたきたい。 ・担当者だけでなく、保護者の思いをくみ取る努力を園全体で、全職員で情報を共有し、取り組んでいくことが大切だと思います。 ・保護者の園行事への参加も就労状況・その他事情によって、参加が厳しい人もいれば、多くの参加を待ち望んでおられる方もいるでしょう。大きな負担をかけず、成長の一端をみていただく行事内容の考案は、大変だったと思います。特に低年齢児が多いと時期や内容も難しくなりますよね。 ・異年齢交流は、日々の保育で活かされていると思いますので、地域の方を取り込んだ保育や、小・中・高・大等幅広い年齢層での交流を、今後も続けて欲しいものです。 ・情報発信からのリターンのアンケート等を見ると、感謝の言葉と共に要望も多いように感じる。その要望は、本当に必要な要望なのかどうかを、しっかり見極めて、今後活かしていきたい。